

これからのために、やるべきことを。 より良い未来をつくる実学教育

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

国内の大学で初となる 自然エネルギー100%大学

千葉県野田市に広がる、メガソーラー発電所。約47haもの広大な敷地に、無数の太陽光パネルが広がっている。脱炭素への対策として自然エネルギーへの期待が高まる中、「大学が使うエネルギーを、大学で創れるか？」をテーマとして、2014年からこの挑戦が始動した。

2014年度の発電実績は336万kWhで、これは学内電力消費量の77%に相当した。不足する23%をキャンパス内の省エネと創エネで賄えば、自然エネルギー100%が実現する。2015年には学外専門家の協力も得て、その可能性を調査。この活動を主導してきた原科幸彦教授は2017年、学長に就任後、これ

を学長プロジェクトのひとつに位置づけ、全学的な取り組みとして「自然エネルギー100%大学」をめざすことを決意した。

その実現に欠かせない柱が3つある。発電所やキャンパスにおける太陽光パネルの増設や照明のLED化といった「ハードウェア」の整備、電力の見える化や制御を支える「ソフトウェア」の導入、行動につながる意識である「ハートウェア」の形成だ。

ハートウェアづくりで大きな役割を担っているのが、学生団体SONEである。「学生に無理をさせない省エネ活動」を理念として、学生目線で様々な省エネの取り組みを企画・実施。学内電力消費量の削減に貢献すると共に、省エネの意識や行動を全学生・教職員に促している。参加学生は年々増え続け、その輪は今

や学内外に広がっている。

2019年、ついに再エネ発電量と消費電力量が同量となる「自然エネルギー100%大学(電力)」を達成。この活動は各界で評価され、地球温暖化防止活動環境大臣表彰、省エネ大賞、さらに新エネ大賞等も受賞し、令和2年度版環境白書において取り組みが紹介された。

現在はこの活動を学外へ広げ、脱炭素社会を実現する取り組みを進めている。2021年には、自然エネルギーの活用等を通じて大学活動に伴う環境負荷を抑制し、脱炭素化をめざす「自然エネルギー大学リーグ」を発足。原科学長が中心となりスタートしたこの活動は、現在19大学の学長が参加するまで広がっている。より良い未来をつくる千葉商科大学の挑戦は、まだまだ続く。

〈右上〉メガソーラー野田発電所には、太陽光パネルが計11,642枚設置され、パネル容量は約2.88MWを誇る(2018年度)。〈右下〉キャンパス内で打ち水を行い、電力に頼らない涼しい過ごし方を実感してもらうことで、省エネ意識の醸成と節電行動の促進を目的とする「打ち水で涼しく大作戦」。SONEのメンバーをはじめ、毎年数多くの学生や教職員が参加している(2022年度)。〈左下〉SONEのメンバーが中心となり、教室の壁に断熱材を新たに入れ二重窓の設置を行うことで、キャンパスをエコ仕様にDIYするワークショップ[InSONEtion]を実施した(2022年度)。



創立以来の伝統である「実学教育」を通してより良い未来に貢献するため、千葉商科大学(CUC)では「社会が必要とする大学」であり続けるための取り組みを全学的に推進している。ここではその一部を紹介しよう。

取材・文/加藤桃子

より良い未来に貢献する、全学的な取り組み事例

01 ICT 支援 ボランティア



市川市との包括協定に基づく ICT 分野の連携事業の一環として、市川市内の小中学校に通う子ども達を対象に、パソコン操作をサポートするボランティア活動。学生達は実際の教育現場における活動を通じて、教職課程履修に対する意欲を向上させる等、将来に活きる姿勢を養っている。

02 CUC100 ワイン・プロジェクト



CUC 創立 100 周年に向けて、大学オリジナルワインの製造をめざすプロジェクト。キャンパス内の畑では、ソーラーシェアリングを導入して葡萄をはじめてとした農作物を栽培。各種イベントを通して地域の方々と交流を深め、新商品の開発に携わる等、幅広く活動を展開している。

03 SDGs まるわかり プロジェクト



SDGs の基本知識を身につけ、企業取材等を通じて社会や企業の取り組みを知り、世界的課題を自分事として考える力を養う短期集中型プロジェクト。参加後の学生達は、真に社会へ貢献している企業を見極める術を就職活動に活かす等、得られた経験をそれぞれの未来へ活かしている。

04 GPAC (アジア学生交流会議)



日本・韓国・中国・台湾・ベトナム・イスラエル等、アジア各国・地域の学生達が英語を使って、国際的な諸問題に関する研究発表や討論を通して交流するイベント。CUC からは学長ゼミの学生達が参加しており、多国籍チーム内で議論を重ね、グローバル人材の資質を磨いている。

全学的な学びを通して 社会課題の解決に挑む

実学を通して、より良い未来へ貢献するために。千葉商科大学では、学部・学科の枠を越えて様々な社会課題の解決に取り組む学びを実践している。前述した学生団体 SON E の活動も、そのひとつである。学生達は同じ熱量の仲間と共に、新たな視点や発見を得ながら、自らの可能性を大きく広げている。

市川市内の子ども達を対象に、学生がパソコン操作をサポートする「ICT 支援ボランティア」は、小中学校における ICT 教育の普及に貢献している。2022 年度は小学生を対象に活動をを行い、インターネットの安全な使用方法を伝える等、ネットリテラシー教育を実施した。

大学オリジナルワインの製造をめざす「CUC100 ワイン・プロジェクト」は、ソーラーシェアリングを導入した畑で栽培した農作物の収穫祭を実施する等、地域住民の方々と交流する機会を積極的に設け、農業の未来やエネルギー資源について考える場を提供している。

「SDGs まるわかりプロジェクト」は、世界的課題を一人ひとりが自分事として考える力を養っている。学生達はここで得られた知識や経験

を活かして、興味関心のある社会課題の解決をめざし新たな行動を起こす等、より良い未来をつくる一歩を踏み出している。

アジア各国・地域の大学の学生が一堂に会して多国籍チームを結成し、国際金融、労働経済、地球環境、ジェンダー、地域格差等の国際的な諸問題をテーマに、英語で討論・発表を行う「GPAC」は、異文化理解を深めグローバルに活躍し続ける人材を世界に輩出している。

幅広い教養と高い倫理観を 備えた「治道家」を育成する

急速に変化する時代に対応する

ために、教育はどうあるべきか。千葉商科大学では、大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸問題を解決する高い倫理観を備えた指導者を指す「治道家」を育成するため、より良い未来に貢献する実学教育を実践し続けている。

また、研究・社会貢献においては、環境・エネルギーをはじめ、会計学の新展開、CSR 研究と普及啓発、安全・安心な都市・地域づくり等、持続可能な社会づくりに貢献する 4 つの学長プロジェクトも進んでいる。

「これからのために、やるべきことを」実践し、社会が必要とする大学であり続けるために、千葉商科大学はさらなる進化を続けていく。

Information

千葉商科大学



1928 年設立の巣鴨高等商業学校を前身とし、1950 年に千葉商科大学として、商学部商学科を開設。現在は商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部を擁し、独自のプロジェクトによる実学教育で内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUC アライアンス企業」約 950 社 (2023 年 1 月現在) との提携や資格取得サポート等、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

DATA

千葉県市川市国府台 1-3-1
TEL 047-373-9701 (入学センター)
URL <https://www.cuc.ac.jp/>